

教 育 研 究 業 績		
氏名 小高佐友里 学位：博士（心理学）		
研 究 分 野		研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド
心理学，教育学		学校臨床心理学，特別支援教育，学校危機予防教育
主要担当授業科目	心理学研究法特論，臨床心理基礎実習Ⅰ・Ⅱ，心理実践実習Ⅰ・Ⅱ・A， 心理学的支援法（心理療法 B）	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例 1) 心理学基礎実験	平成20年4月1日～ 平成23年3月31日	法政大学現代福祉学部において，心理実験の実習を行い結果に基づくレポートの作成方法について指導した。
2) 心理学	平成21年4月1日～ 平成30年3月31日	産業能率大学・自由が丘産能短期大学通信教育学部において，心理学概論の講義をスクーリングにて担当した。
3) 論理療法	平成21年4月1日～ 平成30年3月31日	産業能率大学・自由が丘産能短期大学通信教育学部において，論理療法の期末レポート添削を行った。
4) アサーション	平成21年4月1日～ 平成30年3月31日	産業能率大学・自由が丘産能短期大学通信教育学部において，アサーションの期末レポートの出題および添削を行った。
5) 教育心理学	平成29年4月1日～ 令和4年3月31日	東洋大学文学部教育学科に所属し，教職課程の学生を対象に教育場面で役立つ教育教心理学の理論と実践について講義を行った。その際，主体的で対話的な深い学習を促すアクティブラーニングの手法を取り入れ，理解の定着に努めた。
6) 教育相談	平成29年4月1日～ 令和4年3月31日	東洋大学文学部教育学科に所属し，教職課程の学生を対象に講義を行った。教育相談の理論と実践について，主体的で対話的な深い学習を促すアクティブラーニングの手法を積極的に取り入れ，実践的な学びを促すことができた。
2 作成した教科書，教材 1) 考える力，感じる力，行動する力を伸ばす子どもの感情表現ワークブック	平成23年6月1日	幼児から小学校中学年を対象とした，感情リテラシーの発達を促し，自分と他人の気持ちに気づき，気持ちを調整し，関係づくりを育てるための37の取り組みを提案したワークブックを作成した。（分担執筆）
2) 言語力を育てる一言語心理学入門―	平成24年11月28日	言語心理学の基礎的な知見をふまえ，「言語力を育てる」ための視点を心理学的観点から紹介したテキスト・参考書の作成に従事した。そのうち，発達性読み書き障がいの現状と支援策について論じた。（分担執筆）
3) イラスト版子どもの感情力をアップする本―自己肯定感を高める気持ちマネジメント 50―	平成31年3月30日	幼児から小学校低学年を対象とした，感情リテラシーを身につけるためのワークブックを作成した。感情の発達段階に沿って，自分の気持ちに気づき，気持ちを調節し，他者との適切なコミュニケーションを促していくための 50 のワークを収録した。（分担執筆）
5) 小学生のためのソーシャルスキル・トレーニング―スマホ時代に必要な人間関係の技術―	平成31年3月	小学生を対象としたソーシャルスキル・トレーニング実践のための指導案を作成した。スキルを教える際のポイントや板書例についての記載，スキルの定着を図るために，授業内で利用できるワークシートや振り返りシートをスキルごとに収録するなど，実践に活用しやすい構成となっている。（分担執筆）
6) みらいグロスコンテンツおよびアセスメント開発	令和3年12月22日	小学校2・3年生を対象にSEL をタブレットで学習する教材開発に従事した。（共同）
3 教育上の能力に関する大学等の評価 特になし		

4 実務の経験を有する者についての特記事項 1) 「臨床心理士に必要な知識と求められる役割」 2) 「中学生の問題とその支援のあり方」	平成21年11月 平成28年12月	法政大学文学部心理学科特別講演講師として、臨床心理士に必要な知識と求められる役割について、教育領域における取り組みを中心に解説した。 法政大学文学部心理学科特別講演講師として、中学生の発達段階に特有の課題と、その支援のあり方についてスクールカウンセラーの立場から解説した。
5 その他 1) 日本版 WPPSI－Ⅲ知能検査の標準化 大六一志・渡辺弥生 日本文化科学社	平成29年12月20日	日本版 WPPSI－Ⅲ知能検査標準化のための予備調査および本調査のデータ収集および、評価基準作成に従事した（2006年～2017年）。
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許 1) 高等学校教諭1種免許状（公民） 2) 中学校教諭第1種免許状（社会） 3) 司書教諭免許状 4) 臨床心理士資格 5) 公認心理師資格	平成13年5月1日 平成13年5月1日 平成13年12月1日 平成19年3月20日 平成31年2月5日	平13高1種 第24号（埼玉県教育委員会） 平13中1種 第14号（埼玉県教育委員会） 第233392号（文部科学省） 第16376号（日本臨床心理士資格認定協会） 第15566号（文部科学省・厚生労働省）
2 特許等 特になし		
3 実務の経験を有する者についての特記事項 1) 「思春期の心理障害と臨床援助」 2) 「ソーシャルスキル・トレーニングの理論と実践」 3) 「ソーシャルスキル・トレーニングの理論と実際」 4) 「はじめてのきょうだいクラス（マタニティクラス）」 5) 「子どもの発達を支える視点」 6) 「子どものこころとことばの育ちー5歳児の発達ポイントー」 7) 「はじめてのマタニティクラス」 8) 「親子のためのソーシャルスキルー感情の理解やコントロールに焦点を当てー」	平成21年6月 平成21年8月 平成21年10月 平成29年4月～令和4年3月 平成29年3月 平成30年3月 平成30年4月～令和4年3月 平成30年11月	山梨学院大学付属高等学校にて、思春期に特有な心理的課題とその援助方法について、生徒および保護者を対象に講演を行った。 山梨県新規採用教員研修会（山梨県教育委員会・総合教育センター）において、ソーシャルスキルの理論と、教育場面での実践の方法についてデモ授業を通して解説した。 長野県木島平自主職員研修会（中野・下高井教育会館）において、ソーシャルスキルの理論と、教育場面での実践方法についてデモ授業を通して解説した。 栃木県小山市健康増進課母子保健事業（小山市役所）の一環として、第2子を迎えるご家庭に向けて、きょうだい児への声かけや関わり方についての講義を行った。 栃木県小山市5歳児健康相談事業ネットワーク会議（小山市役所）において、ソーシャルスキルの視点から子どものポジティブな側面に焦点を当て、発達段階に則した声のかけ方について解説した。 栃木県小山市5歳児健康相談事業ネットワーク会議（小山市役所）において、5歳児健康相談において幼児期のことばの発達をアセスメントする視点について解説した。 栃木県小山市健康増進課母子保健事業（小山市役所）の一環として、第1子を迎えるご家庭に向けて、夜泣きや人見知りへの対応、および夫婦関係の変化等についてについて解説した。 栃木県下野市立祇園小区育成会企画（下野市生涯学習センター）にて、感情に焦点を当てた子どものやる気をサポートする声かけの仕方について解説した。

9)「聞く力を育てる関わりーワーキングメモリーの考え方を中心にー」	平成31年3月	栃木県小山市 5 歳児健康相談事業ネットワーク会議（小山市役所）において、ワーキングメモリーの考え方をを用い、日常の関わりを通して聞く力を育てる声かけの仕方について解説した。		
10)「子どもたちのポジティブな行動を促す掲示物の工夫ー危機予防の視点からー」	令和3年3月	栃木県小山市 5 歳児健康相談事業ネットワーク会議（小山市役所）において、ポジティブな視点から子どもたちに望ましい行動を伝える掲示物を用いた工夫について紹介した。		
4 その他 特になし				
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1. スクールカウンセラーによる学校危機予防を目指したソーシャル・エモーショナル・ラーニングの導入と効果	単著	2022年2月28日	風間書房	いじめや不登校といった対人関係に付随する学校危機を予防するために、予防教育の枠組みとして世界中で実践の広がっているソーシャル・エモーショナル・ラーニング（：以下 SEL）の視点を導入し、スクールカウンセラー（：以下 SC）の立場での実践のあり方について提案した。
2. 幼児・児童の発達心理学 コラム 2：「PTSD」（pp.40・41）， コラム 5：「言葉の障害（吃音）」 （pp.90・91），コラム 6：「遊戯療法」（pp.106・107），コラム 10：「かん黙」を担当（pp.175・176）	共著 分担執筆	平成23年3月30日	ナカニシヤ出版	幼児から児童の発達の多様な側面を、発達の流れに沿って学ぶ発達心理学のテキストにおいて、幼児期および児童期によく見られる問題行動についてコラムで解説した。 中澤 潤（監修）榎本淳子・中道圭人（編著） 荒木史代・垣花真一郎・小高佐友里・鈴木亜由美・鈴木伸子・中道直子・布施光代・松崎多千代・森野美央
考える力、感じる力、行動する力を伸ばす子どもの感情表現ワークブック（再掲） ワーク 17：「どっちにしようか迷ったとき」，ワーク 18：「困ったときに何してあげる？」，ワーク 19：「立ち止まって考える」，ワーク 20：「ごめんねの気持ちを伝える」（pp.112 - 127）を担当。	共著 分担執筆	平成23年6月1日	明石書店	幼児から小学校中学年を対象とした、感情リテラシーの発達を促し、自分と他人の気持ちに気づき、気持ちを調整し、関係づくりを育てるための 37 の取り組みを提案したワークブックを作成した。 渡辺弥生（編著） 鳥羽美紀子・谷村圭介・宮本孝子・藤澤 文・小高佐友里・石井睦子・伊藤裕子・山田隆次・森嶋尚子
3. 言語力を育てる一言語心理学入門ー（再掲） 14 章：「発達性読み書き障がいとその支援」（14-1 学校における心理教育的援助 pp.194 - 196，14-4 発達性読み書き障がいとその支援 pp.203 - 206），15 章：「言語障がいの発達とその支援」（15-3 他の発達障がいとの併存とその支援 pp.216 - 217）を担当。	共著 分担執筆	平成24年11月28日	培風館	言語心理学の基礎的な知見をふまえ、「言語力を育てる」ということを心理学的観点から紹介したテキスト・参考書の作成に従事した。そのうち、発達性読み書き障がいの現状と支援策について論じた。 福田由紀（編著） 森島泰則・高橋 登・村本俊亮・土方裕子・白井章詞・野呂幾久子・久野雅樹・井上雅勝・大石衡聴・島田英昭・武田 篤・小高佐友里・猪原敬介・井関龍太・常深浩平
4. 10 代を育てるソーシャルスキル教育 改訂版ー感情の理解やコントロールに焦点を当ててー コラム：「スクールカウンセラーの相談室での取り組み」を担当（pp.71）。	共著 分担執筆	平成25年9月10日	北樹出版	感情に焦点を当てたソーシャルスキル教育のためのワークブックにおいて、スクールカウンセラーとして相談室で行ったソーシャルスキルの視点をを用いた子どもたちへの声かけについて紹介した。 渡辺弥生・小林朋子（編著） 小高佐友里・齊藤敦子・原田恵理子・星 雄一郎・松永博子・山田汐莉
5. 必携 生徒指導・教育相談ー生徒理解，キャリア教育，そして学校危機予防までー コラム：「スクールカウンセラーのつぶやき 子どもの心を伝える代弁者として」を担当（pp.67）。	共著 分担執筆	平成30年4月25日	北樹出版	生徒指導・教育相談のための教職テキストにおいて、アドボカシー（代弁者）としてのスクールカウンセラーの役割について紹介した。 渡辺弥生・西山久子（編著） 原田恵理子・鎌田雅史・飯田順子・中井大介・榎本淳子・杉本希映・西野泰代・若本純子・本田真

				大・三宅幹子・藤枝静暁・小林朋子・納富恵子・清永（迫田）裕子・森嶋尚子・脇田哲郎・森 保之・ <u>小高佐友里</u> ・仲野 繁・藤野沙織・濱家徳子・岡安朋子・小林由美子
6. イラスト版子どもの感情力をアップする本ー自己肯定感を高める気持ちマネジメント 50ー（再掲） ワーク 16：「みんないろんな気持ち」（pp. 50 - 51），ワーク 37：「動いてリラックス（マインドフルネスを取り入れたワーク）」（pp. 94 - 95）を担当。	共著 分担 執筆	平成31年3月30日	合同出版	幼児から小学校低学年を対象とした，感情リテラシーを身につけるためのワークブックを作成した。感情の発達段階に沿って，自分の気持ちに気づき，気持ちを調節し，他者との適切なコミュニケーションを促していくための 50 のワークを収録している。 渡辺弥生（監）木村愛子（編著） 小林朋子・岩崎佐保子・井上康子・森嶋尚子・村上智江子・大川真知子・鳥羽美紀子・社浦竜太・長谷川誉子・原田恵理子・川村真理子・河村 圭・平山佑一郎・藤野沙織・ <u>小高佐友里</u> ・草海由香里・田中裕貴・高橋あり・田代琴美・翁川千里
7. 小学生のためのソーシャルスキル・トレーニングースマホ時代に必要な人間関係の技術ー（再掲） ワーク 3：「感情を理解するスキル」（pp. 36 - 41），ワーク 13：「自分を大切に作るスキル；自尊心を育む関わり」（pp. 90 - 95）を担当。	共著 分担 執筆	平成31年3月	明治図書	小学生を対象としたソーシャルスキル・トレーニング実践のための指導案を作成した。スキルを教える際のポイントや板書例についての記載，スキルの定着を図るために，授業内で利用できるワークシートや振り返りシートをスキルごとに収録するなど，実践に活用しやすい構成となっている。 渡辺弥生・藤枝静暁・飯田順子（編著） 谷村圭介・川崎知巳・染谷満里奈・ <u>小高佐友里</u> ・山田美紀・山田汐莉・宮本明日香・和気淑江・大川真知子
（学術論文） 1. 高校生における「居場所」としての学校の認知	共著	平成18年10月10日	法政大学文学部紀要, 53, 1 - 15.	高校生 351 名を対象に，学校で「居心地がよいと感じる場所」と「居心地が悪いと感じる場所」についてのイメージから，居場所は「物理的評価（力動性）」，「物理的評価（機能性）」，「関係性」の 3 因子から構成されていることが明らかとなった。また，イメージの描画をカテゴリー分類する作業を通して，学校における「居場所」のあり方を考察した。 <u>渡辺弥生・小高佐友里</u>
2. 発達性読み書き障害のアセスメントと指導	共著	平成21年10月10日	法政大学文学部紀要, 59, 51 - 61.	学習障害の中核である，発達性読み書き障害，特に読み障害についての現状とそれらを説明する主要なモデルと，それに基づいたアセスメントおよび指導を概観し，対応を考察した。 <u>福田由紀・小高佐友里</u>
3. 逆さがね着用実験の心理学基礎実験への導入ー福祉・医療系心理学科への導入例の検討ー	共著	平成22年10月20日	法政大学文学部紀要, 61, 125 - 136.	福祉系学部での心理学基礎実験の授業において，視覚障害を理解するという観点を投入しつつ，「逆さがね着用実験」を実験の 1 テーマに組み入れることの意義を検討した。体験することのインパクトが大きい実験テーマであることに加え，受講者の知的好奇心を刺激することができるテーマであることが確認された。 <u>吉村浩一・小高佐友里</u>
4. 発達性読み書き障がい周辺児に関する言語能力特性の検討	共著 査読あり	平成27年10月30日	読書科学, 57, 47 - 54.	読み書き障がい周辺児の存在の有無および，その言語能力の特徴を検証することを目的とし，小学校 1, 3, 5 年生 74 名を対象に，「小学生の読み書きスクリーニング検査」，「教師評定（SEN チェック）」，「標準抽象語理解力検査」，「教研式 Reading-Test」，および「レーヴン色彩マトリクス検査」を実施した。その結果，参加者のうち 15 名の読み書き障がい周辺児の存在が確認され，健常群と比べて文法力の成績が低いことが明らかとなった。 矢口幸康・ <u>小高佐友里</u> ・梶井直親・福田由紀

5. 本邦における発達性読み書き障がい児・者の研究に関する展望—1999年1月から2009年7月までの論文を対象として—	共著	平成29年3月30日	法政大学文学部紀要, 74, 95 - 118.	日本における発達性読み書き障がい児・者に対する1999年～2009年までの10年間に発行された文献のシステマティックレビューを通して、定義やアセスメントに使用されている検査の種類、アセスメントによって明らかとなった子どもたちの特性、実践されている指導法について、研究動向を整理した。 福田由紀・小高佐友里・矢口幸康
6. 学校現場における発達性読み書き障がい児・者へのアセスメントと指導—2009年8月から2016年7月までの論文を対象として—	単著	平成30年10月31日	法政大学大学院紀要, 80, 75 - 90.	学校現場における児童生徒へのスクールカウンセラーと教員の協働を視野に、2009年から2016年までに国内で発表された論文を概観し、学校でできる発達性読み書き障害児・者へのアセスメントと指導のあり方について、有効な方法について考察した。
7. 中学校におけるスクールカウンセラーの予防教育への取り組み—SELの実践と効果—	単著 査読あり	平成30年5月31日	教育実践学研究, 21, 27 - 50.	中学2年生129名を対象に、スクールカウンセラーと教員が協働により、感情への理解を深め適切に対処するスキルの獲得を目標としたソーシャル・エモーショナル・ラーニングプログラムを実施した。その結果、プログラム実施前後の感情知能得点にプラスの変化が見られ、生徒の感情理解や表出のあり方に示唆を与える有効な取り組みであったことが確認された。
8. 児童生徒の問題行動に対するスクールカウンセラーの予防的取り組み—現状と実現への課題—	単著	平成30年10月31日	法政大学大学院紀要, 81, 29 - 35.	予防的取り組みの現状と、実践の際の課題について検討することを目的とし、SC34名を対象に質問紙調査を実施した。その結果、予防的実践への課題意識として「SC自身のスキル不足」、「物理的・心理的余裕のなさ」、「教員側の意識の低さ」の3因子が確認された。そのうち、SCの予防的実践を滞らせる一番の課題は、SC自身の知識やスキルへの不安にあることが示唆された。
9. スクールカウンセラーにとっての予防教育の意義—TAE (Thinking At the Edge) を用いた質的分析を通して—	単著	令和元年10月31日	法政大学文学部紀要, 83, 17 - 29.	予防教育（授業）を実践した経験のあるSCへのインタビュー調査の内容を、TAE (Thinking At the Edge) を用いた分析によりSCが学校で予防教育を実践する意義を検討した。その結果、SCが児童生徒の前で授業をすることは、心理教育的援助を行うことに加え、教員との協働を通して、SC自身の自己効力感を高め、その後の活動の広がりには肯定的な作用を与えることが示唆された。
10. スクールカウンセラーの活動状況と予防につながる取り組みの検討	単著	令和3年10月31日	法政大学大学院紀要, 87, 61 - 72.	スクールカウンセラーの活動状況と予防につながる取り組みについて現状把握するために質問紙調査を行った。その結果、スクールカウンセラーの活動は不登校を中心とした「二次・三次予防」への取り組みが中心となっている一方で、「一次予防」に貢献する取り組みは、「予防への期待」が高く評価されているながらも、活動自体が少ないことが明らかとなった。
(その他) (学会発表) 1. 高校生の学校における「居場所」の認知	共同	平成16年5月8日・9日	日本認知心理学会第2回大会発表論文集, 76. (ポスター発表)	高校生の「居場所」の認知について、SD法を用い“居心地のよい場所”と“居心地の悪い場所”の相違を検討した。 ○小高佐友里・渡辺弥生
2. 対人葛藤場面におけるソーシャルスキルの発達(1)	共同	平成17年9月17日・18日	日本教育心理学会47回総会発表論文集, 55. (ポスター発表)	小学生から高校生における対人葛藤場面でのソーシャルスキルの発達を検討した。本研究は、そのうちの小学生部分に当たるものである。 ○渡辺弥生・榎本淳子・小高佐友里

3. 対人葛藤場面におけるソーシャルスキルの発達（2）	共同	平成17年9月17日・18日	日本教育心理学会 47 回総会発表論文集, 56. (ポスター発表)	小学生から高校生における対人葛藤場面でのソーシャルスキルの発達を検討した。本研究は、そのうちの中学生部分に当たるものである。 ○榎本淳子・渡辺弥生・小高佐友里
4. 対人葛藤場面におけるソーシャルスキルの発達（3）	共同	平成17年9月17日・18日	日本教育心理学会 47 回総会発表論文集, 57. (ポスター発表)	小学生から高校生における対人葛藤場面でのソーシャルスキルの発達を検討した。本研究は、そのうちの高中生部分に当たるものである。 ○小高佐友里・渡辺弥生・榎本淳子
5. 高校生の「居場所」イメージについて	共同	平成18年3月20日～22日	日本発達心理学会第 17 回大会発表論文集, 409. (ポスター発表)	高校生の「居場所」イメージについて、得られた描画を KJ 法により分類し、それぞれの特徴について検討した。 ○小高佐友里・渡辺弥生
6. 小学生におけるソーシャルサポートとソーシャルスキルの関係	共同	平成18年9月16日・9月17日	日本教育心理学会第 48 回総会発表論文集, 572. (ポスター発表)	小学生におけるソーシャルサポートとソーシャルスキルの関係について、質問紙調査の分析を通して考察した。 ○渡辺弥生・榎本淳子・小高佐友里
7. 中学生・高校生におけるソーシャルサポートとソーシャルスキルの関係	共同	平成18年9月16日・9月17日	日本教育心理学会第 48 回総会発表論文集, 577. (ポスター発表)	中・高生におけるソーシャルサポートとソーシャルスキルの関係について、質問紙調査の分析を通して考察した。 ○小高佐友里・渡辺弥生・榎本淳子
8. 日本国内における発達性読み書き障がい研究のシステマティック・レビュー	共同	平成22年9月17日～19日	認知科学会第 27 回大会発表論文集, 508 - 512. (ポスター発表)	1999 年から 2009 年における発達性読み書き障害児・者を対象とした国内の研究について、システマティックレビューの手法を用い、診断や支援の際に引用している定義や理論等について動向を整理した。 ○福田由紀・矢口幸康・小高佐友里
9. 発達性読み書き障害児・者の能力に関するシステマティック・レビュー	共同	平成22年7月	日本読書学会第 54 回大会発表資料集, 76-84. (口頭発表)	1999 年から 2009 年における発達性読み書き障害児・者を対象とした国内の研究について、システマティックレビューの手法を用い、アセスメントに用いる検査や、支援の対象となる能力について整理した。 ○矢口幸康・小高佐友里・福田由紀
10. 擬似的発達性読み書き困難に関する言語能力特性の検討	共同	平成23年7月24日～26日	日本教育心理学会第 53 回総会発表論文集, 389. (ポスター発表)	小学生 74 名を対象に、読み書き障がい周辺児の存在の有無、およびその言語能力の特徴を検証することを目的とし、調査を実施した。その結果、健常群と比べて文法力の成績が低い児童が一定数存在することが明らかとなった。 ○小高佐友里・矢口幸康・梶井直親・福田由紀
11. スクールカウンセラーの視点からの学校危機予防意識	共同	平成29年9月16日・17日	日本学校心理学会第 19 回大会発表抄録集, 77. (ポスター発表)	予防知識や経験不足による不安が、学校現場での予防的実践を滞らせている可能性が示唆された。予防的実践を SC に期待するのであれば、SC 自身の効力感を高める動機づけを高めると共に、簡易に実践できるプログラムの開発が求められる。 ○小高佐友里・渡辺弥生
12. 中学校におけるスクールカウンセラーの予防教育への取り組み—SEL (Social and Emotional Learning) がレジリエンスに与える影響について—	単独	平成30年3月4日	日本 SEL 研究会第 8 回大会 (口頭発表)	中学 2 年生 129 名を対象に、感情への理解を深め適切に対処するスキルの獲得を目標とした、SEL プログラムを実施した。その結果、プログラム実施前に比べ実施後のレジリエンス得点にプラスの変化が見られた。
13. The Effect of Social and Emotional Learning on the Emotional Intelligence of Japanese Junior High School Students	Single 査読あり	July 25th-28th, 2018	40th Annual Conference of the International School Psychology	中学 2 年生を対象に、感情への理解を深め適切に対処するスキルの獲得を目標とした SEL プログラムの実践例と、効果について国際学会（東京成徳大学で開催）にて実践報告を行った。

			Association, PPA 0164 (Poster session) at Tokyo Seitoku University, Tokyo, Japan	
14. スクールカウンセラーが実践する予防教育の現状—インタビュー調査の分析を通して—	単独	平成30年12月2日	教育実践学会第26回大会プログラム・論旨集, 28-29. (口頭発表)	予防的実践を行った経験のある SC6 名を対象に、インタビュー調査を実施した結果、全ての児童生徒に届く援助を行うためには、SC が子どもたちの前に立ち、直接的なやり取りをしたり、お便りを発行したりすることで間接的に相談室の様子を知らせる取り組みに、効果が期待できることが示唆された。
15. チーム学校を活かしたソーシャル・エモーショナル・ラーニング (SEL) 実践—スクールカウンセラーが関わる実践に焦点を当てて—	共同	令和元年9月15日	日本教育心理学会第61回総会 (自主シンポジウム企画)	SEL は子どもたちの学校不適応や問題行動の改善に加え、学力向上へのエビデンスも示されており、日本国内においても学校教育への導入が広がっている。「チームとしての学校」の在り方が期待される中で、SC と教員が連携し協働して行う SEL の実践例を通し、効果的な実践の在り方や今後の課題について検討することを目的とした。 企画・司会：石本雄真 (鳥取大学) 話題提供：小高佐友里 (法政大学大学院)、佐竹真由子 (福岡県直方市立直方第二中学校)、石本志穂 (鳥取県教育委員会) 指定討論：青山郁子 (都留文科大学)
16. コロナ禍における教育実践の現状と課題	共同	令和3年2月13日 午後3時~5時	教育実践学会 (シンポジウム形式のオンライン研修会)	コロナ禍における教育実践の現状と課題について、幼児から大学までの教育現場での取り組みのうち、スクールカウンセラーとして、中学生を対象に行った心理教育実践の様子を報告した。 コーディネーター：山口豊一 (聖徳大学) シンポジスト：神永典郎 (白百合女子大学)、小高佐友里 (栃木県教育委員会)、青木俊哉 (東京都練馬区橋戸小学校)、相場博明 (慶應義塾幼稚舎)
17. 通級でのソーシャル・エモーショナル・ラーニングの支援が生徒に与える影響	共同	令和3年11月28日	教育実践学会第29回大会 (口頭発表)	高校通級におけるソーシャル・エモーショナル・ラーニングの実践とその効果について報告した。 ○薬師寺潤子・小高佐友里・渡辺弥生・原田恵理子
18. 日本の教育に SEL を定着させるには	共同	令和4年2月27日	日本 SEL 研究会第12回大会シンポジウム (シンポジスト)	日本の学校教育に SEL を定着させていくための方策について、学校心理学における3段階の援助サービスの枠組みを参照しながら考察した。 シンポジスト：石隈利紀 (東京成徳大学)、渡辺弥生 (法政大学)、小高佐友里 (法政大学大学院ライフスキル教育研究所)、澤田葉月 (法政大学大学院) 指定討論：松本有希 (徳島文理大学)、小泉令三 (福岡教育大学) 司会進行：宮崎 昭 (立正大学)
(依頼原稿) 1. 「小学校保健ニュース」心の成長シリーズ② 不安や緊張とうまく付き合うために	監修	令和3年9月28日	少年写真新聞社	SEL を用いた不安や緊張とうまく付き合うための取り組みとして、呼吸法やイメージ法、セルフトーク等切り替えの方法について紹介した。
2. 「小学保健ニュース」心の健康シリーズ③ 3. 自分に合ったストレス解消法を見つけよう	監修	令和4年2月8日	少年写真新聞社	自分に合ったストレス解消法を見つけるためのヒントとして、コーピングやラクセッション法について紹介した。
4. SNS 世代の中学生のためのソーシャルスキルトレーニングワーク⑦「断る」(pp. 80-81), ⑧「感情を理解する」(pp. 82-83), ⑨「異性に関わる」(pp. 84-85), ⑩「SNS を通して関わる」(pp. 86-87) を担当。	共著 分担執筆	令和4年5月1日	授業力&学級経営力, 146, 64-87.	SNS 世代の中学生に必要なソーシャルスキルについて、中学生の発達段階を踏まえた解説に加え、学級経営の中で実践できる10のソーシャルスキル・トレーニングの指導案を掲載した。

				渡辺弥生（編著） 原田恵理子・澤田葉月・薬師寺潤子・小高佐友里
（外部資金獲得状況） 1. 公益財団法人上廣倫理財団令和3年度研究助成採択	単独	令和4年3月1日～ 令和6年2月末		SCによる学校危機予防を目指したSELの導入と効果を研究課題とし、現場での活用が容易で、高い効果の得られる実践方法について検討することを目標とした。

（注）「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。